

島田市立小中学校再編計画（案）

（学校再編計画策定委員会報告書）

令和元年〇月

島田市学校再編計画策定委員会

1 再編計画策定までの経緯

2040年には、現在ある職業の60%は、人工知能やロボットに取って代わり、子供たちは新しい職業につかなくてはならないと言われていています。また、法律の改正により外国人の増加も間近に迫っています。

このように変化の激しい時代を生き抜いていかななくてはならない子供たちにとって、どのような教育を行うべきか、どのような資質を身に付けなくてはならないかは大きな課題になっています。

文部科学省もきたる新しい時代に備え、アクティブラーニングや小学校の英語学習、プログラミング教育の導入などを行っています。これからの時代には、自主的・積極的な姿勢、困難にも負けない強い心やコミュニケーション力などが求められています。

そんな時代背景を考慮し、平成27年度・28年度に「島田市立小学校及び中学校のあり方検討委員会」が開催され、地域総ぐるみの教育、夢育・地育の推進、小中一貫教育の推進などが提言されました。また、その中で、児童生徒の教育環境確保の観点から学校再編を検討することにも触れられました。

上記提言を受け、平成29年度・30年度において「島田市教育環境適正化検討委員会」が開催され、委員会の協議の他、地区での説明会や保護者への説明会を実施し、平成30年9月に提言書が出されました。

同委員会において、「子供を最優先にした学校づくり」が共通理解され、学校再編は、島田市全体の問題であるので全市ぐるみの対応をすることや、1学年当り概ね20人を切るような場合は早期の再編を検討することなどが提言されました。学校再編の方針案として、北部地区は再編案2案が、初倉地区では再編案1案が示されています。

また、新学校の特色として、「夢育・地育」のパイロット校として、小中一貫教育の推進、コミュニティースクールの実施なども例示されました。

平成30年10月には、市長と教育委員が協議する総合教育会議において、初倉南小学校は同時統合が望ましいという地域の声が紹介され、同時統合についても議論されました。この議論を基に、教育委員会内部で再編案を作成しています。

<再編案>

- ・北中学校は、平成33年度に島田第一中学校と統合
- ・北部4小学校は、平成36年度に校舎リニューアルが完成する島田第一小学校と統合
- ・初倉南小学校と湯日小学校は、平成34年度に初倉小学校と統合

総合教育会議において、教育委員から初倉南小学校の統合については、丁寧な説明と保護者や地域の方々から意見を聞くべきという意見を頂き、12月に2回、1月に1回の意見交換会を同校の保護者や地域の方々に行っています。

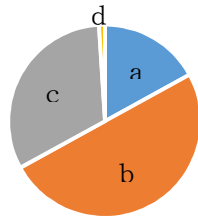
また、その後初倉地区全体、湯日地区、北部地区でも意見交換会を行ってきました。

2 初倉地区意見交換会で出されたアンケート結果と主な意見

(1) 初倉南小学校区意見交換会

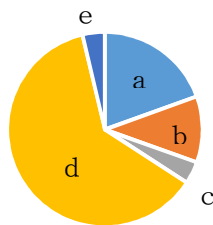
① 初倉南小学校保護者アンケート結果

ア 三校同時統合について



- a 賛成 17%
- b 反対 50%
- c どちらでもよい 32%
- d その他 1%

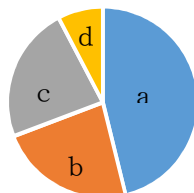
イ 平成 34 年の同時統合について



- a ちょうど良い 19.5%
- b 早過ぎる 11%
- c 遅過ぎる 3.7%
- d 分からない 62.1%
- e 未回答 3.7%

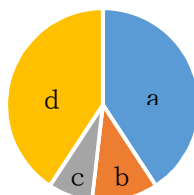
② 初倉南小学校区地域住民アンケート結果

ア 三校同時統合について



- a 賛成 46.1%
- b 反対 23.1%
- c どちらでもよい 23.1%
- d 未回答 7.7%

イ 平成 34 年の同時統合について



- a ちょうど良い 42.3%
- b 早過ぎる 11.5%
- c 遅過ぎる 7.7%
- d 分からない 42.2%

③ 主な意見

地域住民保護者アンケートの結果（複数回答）からは、再編に当たって重視すべきこととして、登下校における安全・利便性（64人）、学校施設設備の充実（41人）、子供同士の切磋琢磨（34人）などが上位を占めていました。

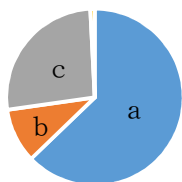
意見交換会でも同様の意見が多く出されました。この他には、統合によりク

ラスの人数が増えると、先生の目が届かなくなるのではないかという不安を持つ保護者が多く、現状に不安や不満がないため、3校同時統合に反対する意見になっていました。

(2) 湯日地区意見交換会

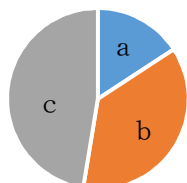
① アンケート結果

25人(保護者16人)の参加者の84%が当日の説明を理解できたと回答し、学校再編に当り重視すべき点として、登下校の安全・利便性、子供同士の切磋琢磨、地域住民と子供のふれあいなどが上位を占めました。



<保護者>

- a 湯日小学校の再編に賛成 76%
- b 湯日小学校の再編に反対 12%
- c その他 12%



<賛成と回答した方の望む統合>

- a 3校同時統合 15.8%
- b 湯日小先行統合 36.8%
- c 湯日小と初倉小の統合だけ 47.4%

「湯日小先行統合」または「湯日小と初倉小の統合だけ」と回答した方のうち、平成34年度統合に賛成する方が5人、平成34年度では遅すぎると答えた方が6人いる一方で、平成34年度以降の統合を望む人は3人でした。

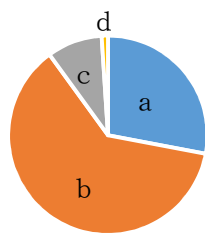
② 主な意見

保護者の意見だけでなく、地域のことも考えていかないと地域がなくなるという意見や、湯日地区は子育てには何ら問題がないからと、学校再編に反対する地区住民の意見が聞かれた反面、1学年20人を切ると統合を考えるべきならば統合が遅すぎるという意見も聞かれました。

(3) 初倉地区全体意見交換会

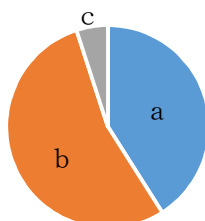
① アンケート結果

70人(保護者50人)の参加者の81%が当日の説明を理解できたと回答し、学校再編に当り重視すべき点として、登下校の安全・利便性(50人)、施設整備の充実(40人)、子供同士の切磋琢磨(20人)が上位を占めました。



< 3校同時統合について >

- a 賛成 28%
- b 反対 62%
- c その他 9%
- d 未記入 1%



< 反対の回答した方の理由 >

- a 湯日小を統合した後初倉南小を統合する 41%
- b 湯日小と初倉小の統合だけ 54%
- c その他 5%

反対と回答した方の多くは同時統合に反対ということが分かります。

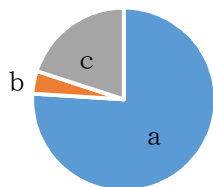
② 主な意見

「初倉南小学校の児童数の推移を見ると、設備が整っていない状態では保護者の賛同は得られない。」という意見に象徴されるように、初倉南小学校の人数や初倉小学校の受け入れ態勢への不安が多く聞かれた。また、子供の安全な登下校にたいする不安は、現在でも遠距離を徒歩通学している初倉小学校の保護者からも出されました。

3 北部地区意見交換会で出されたアンケート結果と主な意見

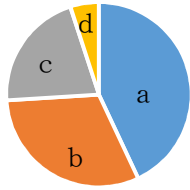
① アンケート結果

96人（保護者68人）の参加者の75%が当日の説明について理解できたと解答し、分からないと回答した方は23%となっています。学校再編にあたって重視すべき点については、登下校の安全・利便性（75人）、子供同士の切磋琢磨（42人）、子供とのふれあい（42人）が上位を占めています。



< 北中学校を第一中学校に統合すること >

- a 賛成 76%
- b 反対 4%
- c その他 20%



＜北部4小学校を第一小学校に統合すること＞

- a 賛成 42.7%
- b 反対 31.3%
- c その他 21%
- d 未記入 5%

② 主な意見

説明が理解できないと回答した理由は、再編案に対する意見を聞く会だったため、今後開催する学校再編計画策定委員会で決まるとの発言に「何も決まっていない」と反発されたものと思われます。

北中学校と島田第一中学校との統合に賛成・反対の両者から、途中での統合により、部活所属や学校不適應への不安が聞かれ、1学年ずつ統合することも検討して欲しいという要望もありました。統合に賛成する方の中には、できるだけ早く統合して欲しいという意見の方も複数いました。

北部4小学校の統合については、より安全な校舎で学ばせたいから島田第一小学校校舎は改築でお願いしたい、各小学校のよさが残るようにして欲しいなど、統合を前提にした意見が出された一方で、いじめや登下校への不安も出されました。また、統合後の地域活性化や伊久美小学校の特認校存続の意見も聞かれました。

4 学校再編計画策定委員会

(1) 北部地区及び島田第一小・島田第一中学校再編について

北中学校と島田第一中学校を統合する再編案については、第1回委員会で、社会に出て行くために必要な人間関係を広げることの大切さや、教員数が少なくなることで効果的な授業を展開することに限界を生じるなど、望ましい教育環境を考えました。また、「部活動の選択の幅を広げたい」ということを理由に早期統合を望む声が多いことを委員が共通認識し、部活動の在り方を含めた検討が重要であることを確認し合いました。

第2回委員会で、伊太小学校・神座小学校の児童には部活動が少ないために私学を受験し入学する子が多くいることに触れ、受験準備に入る家庭のためにも統合とその時期に関する決定をできるだけ早く示すことのほか、統合することとなった場合の制服問題や自転車通学の許可等、一歩踏み込んだ話し合いを行いました。

この結果、北中学校については早期に島田第一中学校に統合する方針となりました。

伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校と島田第一小学校を

統合することとした再編案に対しては、第1回委員会で少人数学校の良さや大規模校での生活に不安を訴える保護者がいることや、特認校の存続、校舎の跡地利用についてもできるだけ保護者や地域の思いに配慮することとしました。

第2回委員会では、激しい社会の変化に対応できる力を子供たちが身に付けることのできる教育環境を整えることや、複式学級の困難さを解消することが必要であることのほか、伊久美の自然を活かした移動教室やサタデーオープンスクール、特認校の在り方についても検討しました。また、それぞれの地域で行ってきた伝統的な教育の大切さや、遠距離通学となる子供たちの通学手段の確保、再編後の跡地利用についても議論されました。

この結果、北部4小学校については、島田第一小学校の校舎のリニューアルに合わせた統合がベターであるとの判断で一致しました。

(2) 初倉地区小学校再編について

初倉南小学校、湯日小学校と初倉小学校を統合する再編案については、第1回委員会で、教室や下駄箱等の改修が必要となるものの、初倉小で受け入れが可能であることを確認した一方、平成34年度（令和4年度）においても初倉南小は文科省が示す適正規模に合致していることや、県道34号島田吉田線の交通量増加に伴う通学の危険性を背景に、初倉南小の保護者からの理解を得られていない状況を共有しました。

第2回委員会では、初倉南小学校の保護者から引き続き理解を得られていないこと、また受け入れ側の初倉小学校の保護者からも校舎と体育館が現状より窮屈になることへの不安の声があがっている状況を把握するとともに、湯日小学校の保護者の一部には平成34年度より早い統合を望む声があることを確認しました。また、3校同時統合に向けた学校間交流による子供たちへの負担や、スクールバスの利用基準の考え方等についても議論を深めました。

この結果、初倉地区については、保護者の希望が多い湯日小学校を先行して初倉小学校に統合し、初倉南小学校については今後の人口推移を見ながら初倉小の長寿命化工事等のタイミングで統合する方針で検討することになりました。

(3) 第3回学校再編計画策定委員会について（5月13日開催）

第3回委員会では、第2回委員会までに出た意見を集約して、事務局案を提示し、計画（案）の内容を具体的に話し合いました。

① 令和3年度に北中学校と島田第一中学校を統合する事務局案について

・北中学校の課題は部活動だけでなく、人間関係を広くすることの大切さや教員数が少ないことで授業の制限を受けてしまうことについても策定

委員会で話し合ったことを明記する。

・統合に係る生徒の保護者の心配を解消できるようクラス編成や通学手段等についても盛り込む。

- ② 令和 6 年度に伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校と島田第一小学校を統合する事務局案について
 - ・保護者の不安を解消するため通学手段や学区等についても明記する。
 - ・統合後の特認校についてもわかり易い表現にする。
 - ・地域との関わりが続いていくことを明記する。
- ③ 令和 3 年度に湯日小学校と初倉小学校を統合する事務局案について
 - ・令和 4 年度統合には理解があっても令和 3 年度では早すぎると考える保護者がいるかもしれないので、以前の方針案より早めた理由を明確にする。
 - ・規模に関係なく校名や校歌について検討することを明記する。
- ④ 令和 10 年度に初倉南小学校と初倉小学校を統合する事務局案について
 - ・令和 10 年度になった理由を明記しなくてはならない。(児童数の推移と受け入れる初倉小学校と長寿命化工事を実施できる最短年度)
 - ・目指す小中一貫校のメリットを活かし、デメリットを最小減に抑えることを明記する。
- ⑤ 事務局案全体をとおして
 - ・吸収のイメージとならないよう全ての再編のカリキュラム等検討委員会で学校の名称、校歌の協議を実施する。
 - ・特認校など学校間では決められないものがあるので、カリキュラム等検討委員会には島田市教育委員会が加わることを明記する。

5 学校再編計画（案）

(1) 再編に伴って設置する各委員会

① カリキュラム等検討委員会

カリキュラム等検討委員会は、島田市教育委員会と対象校によって構成するもので、統合に向けたカリキュラムはもちろん、学校の名称、校歌、学用品、補助教材や教員の配置等の調整を行うとともに、それぞれの再編対象校が抱える課題についても協議します。

また、記念式典や記念誌等に関わる協力体制を整えます。

② 跡地利活用検討委員会

跡地利活用検討委員会は、副市長を中心として島田市役所全体で構成す

るもので、再編後の校舎や敷地の利活用について協議します。

(2) 北部地区及び島田第一小・島田第一中学校

北中学校と島田第一中学校の統合	伊太小学校、相賀小学校、 神座小学校、伊久美小学校と 島田第一小学校の統合
令和3年4月に再編	令和6年4月に再編

① 北中学校と島田第一中学校を令和3年度に統合

北中学校区生徒に切磋琢磨したり多様な考え方に触れたりする場、そして自分に合った部活動を選択できる環境を提供するために、令和3年度に統合します。また、統合時期を勘案して、カリキュラム等検討委員会を直ちに設置し、必要な協議を開始します。

○カリキュラム等検討委員会で協議すべき主な課題

- ・統合に係わる生徒に配慮したクラスの編成
- ・統合に向けた部活動の合同実施や既存の合同チームとの調整
- ・通学の安全性を確保するためのバス通学や自転車通学の許可
- ・統合に係わる生徒の制服

② 伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校と島田第一小学校を令和6年度に統合

北部4小学校区児童が指導要領に沿った十分な教育を受けられるように複式学級を将来に渡って解消するとともに、多彩な考え方に触れ、広い人間関係を構築できるよう、島田第一小学校の校舎改築（改修）が完了する令和6年度に統合を行います。また、複数校の再編となるため、令和2年度を目途にカリキュラム等検討委員会を立ち上げ、必要な協議を開始します。

○カリキュラム等検討委員会で協議すべき主な課題

- ・通学の安全性を確保するためのバス通学や保護者負担への対応
- ・通学距離や時間を考慮した指定校変更制度の改正
- ・各地域が行ってきた伝統的な教育の活かし方
- ・統合までの学校間交流（北部4小学校の交流の推進等）
- ・伊久美地区の自然を活かした移動教室やサタデーオープンスクールの存続
- ・特認校制度の存続や特認校を行う学校の変更等の検討
- ・統合に向けた島田第一小学校の最善な改築（改修）の方針

(3) 初倉地区小学校

湯日小学校と 初倉小学校の統合	初倉南小学校と 初倉小学校の統合
令和3年4月に再編	再編について検討を継続する

① 湯日小学校と初倉小学校を令和3年度に統合

湯日小学校区児童の学習環境を整えるために、複式学級が連続する状況を解消するとともに、大規模な初倉中学校に進学したときの中学生ギャップを解消するため、令和3年度に統合します。また、統合時期を勘案して、カリキュラム等検討委員会を直ちに設置し、必要な協議を開始します。

○カリキュラム等検討委員会で協議すべき主な課題

- ・通学の安全性を確保するためのスクールバスの運用と対象基準
- ・通学距離や時間を考慮した指定校変更制度の改正
- ・地域が行ってきた伝統的な教育の活かし方
- ・統合までの学校間交流の充実

② 初倉南小学校と初倉小学校の再編については今後も検討を継続する

第3回学校再編計画策定委員会終了後、かねてから予定していた市長と教育委員との意見交換会を開催し、当委員会で議論してきた内容について話し合いが行われました。

意見交換会では、初倉南小学校と初倉小学校の統合について、島田の教育が目指す小中一貫のモデル校として実施することや、施設面における配慮についても認識が一致しました。また、小中一貫教育のメリットを最大限に活かすためには、小学校と中学校の校舎を同一敷地内に設置することにも話題が広がったため、保護者や地域の意見も踏まえ、さらなる調査・研究が必要であるとの認識に至りました。

これを受け、第4回学校再編計画策定委員会において、現時点で統合時期を含めて8月までに結論を出すことは困難であると判断しました。

以上のことから、初倉南小学校と初倉小学校の再編については、検討を継続していくこととし、令和3年3月を目途に結論を導き出せるよう新たな協議を提案します。

○検討を継続する中で協議すべき主な課題

- ・初倉小学校と初倉南小学校の統合及び一体型小中一貫校についての調査・研究

委員名簿（策定時）

委員長	濱田 和彦	島田市教育長
委員	齋藤 啓世	島田第一小学校長
委員	鳥居 修	伊太小学校長
委員	久保田 法善	相賀小学校長
委員	曾我 広義	神座小学校長
委員	小林 正宣	伊久美小学校長
委員	萩原 一広	初倉小学校長
委員	増田 達一	湯日小学校長
委員	栗田 恵理	初倉南小学校長
委員	杉本 容康	島田第一中学校長
委員	村田 一史	北中学校長
委員	鈴木 将未	市長戦略部長
委員	北川 博美	行政経営部長
委員	大石 剛寿	教育部長
委員	鈴木 利弘	学校教育課長